

日本史B シラバス

教材	単位数	対象学年・クラス
教科書：新選日本史B（東京書籍） ワークシート	4単位	3学年 普通科 選択 3年1・2・3組

1, 指導目標

日本列島地域の先史時代から現代にいたる人々の営みや社会の変化などについて知識と理解を深めることを通して、自らの人間としてのあり方・生き方を主体的に考えることができるようにする。その際、日本と沖縄との関係について、自らの問題として思考を深めることができるよう留意する。

2, 評価の観点及び評価方法

	a) 知識・技能	b) 思考・判断・表現	c) 学びに向かう態度
定期考査・臨時考査	40	10	
研究物・レポート・宿題 制作物・実技	10	20	10
学習態度・出席状況			10

3, 授業の展開と形態

3年生、地理Bとの選択。1組は、単独で地理との2展開。2・3組は、同時展開で、日本史1クラス、地理1クラス。

4, 学習方法

(1) 授業における学習

予習として、授業を行う単元の範囲を読んでおくことが望ましい。

教師の発問に対して積極的に発言・質問する姿勢や、自分なりの問題意識をもって臨むと、より深い理解につながる。

教師の説明や教科書の記述について所与のものと考えず、常に問いを発する姿勢が必要である。

授業のワークシートは、空欄の残らないように周囲と協力しながら毎時間取り組む。教員の説明について、余白等を書き留めておく姿勢があるとなおよい。

(2) 定期考査に向けての学習

教科書準拠のノート等を活用して、計画的に学習を進めるとよい。

定期考査前の学習は、ただ言葉を覚えるだけではなく、それが意味するものを自分で説明できるように意識したい。

(3) NIEについて

長期休業中の課題その他として、新聞を活用した学習も計画している。自らの進路選択等に資するよう積極的に取り組むことが求められる。

5, 履修上の留意点

(1) 履修・修得における注意点

欠課数が年間授業時数の3分の1を超える場合には、履修が認められないので注意すること。ただし、欠課に正当な理由がある場合には、内規に従って補充を行うこともある。

1学期・2学期の評価は100点法で、学年末の評定は5段階で、それぞれ行う。1・2学期の35点未満は単位保留懸念科目となる。学年末で2に満たない場合は、単位保留科目となる。

(2) 授業における注意点

教科書その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。なお、授業で配布するワークシートを整理するために、各自でファイルを準備すること。

私語や居眠り等、怠惰な態度で授業に参加する生徒については、その都度指導する。
提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。ワークシート同様、成績に加える。

6, 年間計画

月	時	単元	学習目標	評価
4	1	オリエンテーション	・授業の進め方や評価について確認する。	c)
4 5	6	第1編 原始・古代 第1章 文化と国家の形成 1.日本列島の旧石器文化 2.縄文時代の社会と文化 3.弥生時代の社会と文化 4.小国の分立から倭国の形成へ 5.ヤマト政権の形成 6.倭の五王とヤマト政権の勢力伸長 7.氏姓制度と群集墳の出現	・日本列島から出土した骨や石器、環境の変化などから、旧石器時代・縄文時代の生活と文化及び社会の特徴を考察する。 ・水稻農耕の発展にともなう地域集団の形成、首長の出現を理解する。 ・小国分立の状態から邪馬台国連合の形成にいたる過程を、考古学や中国文献から理解する。 ・古墳の築造がヤマト政権成立にどのような意味があるかを理解する。 ・ヤマト政権の政治外交について、東アジアのなかで考察する。 ・ヤマト政権が政治制度や地方支配を強めていく過程を理解する。	a) b) c)
5	10	第2章 古代国家の確立 1.飛鳥時代の政治と文化 2.古代国家の形成 3.律令の成立と白鳳文化 4.遣唐使と律令政治 5.奈良時代の社会と政治 6.国家仏教と天平文化 7.平安初期の政治と文化 8.摂関政治の確立 9.国風文化の成立	・隋の成立が天皇中心の国家体制を形成する契機となったことを理解する。 ・唐の成立により東アジア諸国が緊迫するなかで大化の改新や壬申の乱が起きたことを理解する。 ・律令体制を基本とする古代国家が天武・持統朝により形成されたことを理解する。 ・唐・新羅・渤海との交流の意味を考察する。 ・戸籍や計帳から、律令制下の農民の負担や生活を考察する。 ・鎮護国家が実践された社会的背景について理解する。 ・長岡京や平安京への遷都、蝦夷との戦争と律令制の再編の過程を民衆との関わりのなかで理解する。 ・国司の地方政治における事例を通して、律令国家の変質を考察する。 ・仮名文字の発達や浄土教の広がりについて理解する。	a) b) c)
5 6	10	第2編 中世 第3章 中世社会の成立 1.中世社会の土地制度 2.武士団の成立 3.院政と保元・平治の乱 4.平氏の繁栄と治承・寿永の乱 5.鎌倉幕府の成立過程 6.承久の乱と執権政治 7.地頭の荘園支配 8.農工業の発達と流通 9.蒙古襲来と鎌倉幕府の衰退 10.鎌倉時代の仏教と文化	・中世社会を特徴づける荘園公領制について、院政の出現と関連させて理解する。 ・武士とはどのような人々をさし、どのようにして成長を遂げたかを考察する。 ・院政の政治・経済的基盤や、平将門が院政と関わり台頭したことを理解する。 ・平氏政権から治承・寿永内乱への過程について理解する。 ・治承・寿永内乱のなかで鎌倉幕府の支配機構が段階的に整備されていったことを考察する。 ・頼朝死後の北条氏による執権政治と、御成敗式目制定の背景を理解する。 ・地頭と荘園領主・荘民との対立について考察する。 ・二毛作の普及などによる農業生産の発展と、日宋・日元貿易の展開について理解する。 ・モンゴル軍はなぜ日本侵攻に失敗したのかを考察する。 ・仏教の新しい動向がなぜ生まれたのか、その特徴は何かを考察する。	a) b) c)

		11.北条氏の専制と悪党	<ul style="list-style-type: none"> ・得宗専制体制への不満や悪党の出現により倒幕に至る過程を理解する。 	
6	8	<p>第4章 中世社会の展開</p> <p>1.建武の新政と南北朝の内乱</p> <p>2.室町幕府の確立</p> <p>3.室町時代の東アジアと日本</p> <p>4.南北朝時代の文化と北山文化</p> <p>5.室町時代の流通経済の発達</p> <p>6.惣村と一揆</p> <p>7.室町時代の衰退と戦国動乱</p> <p>8.戦国時代の政治と社会</p> <p>9.東山文化と地方への波及</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後醍醐天皇の政治が短期間に崩壊した理由やその後の内乱を理解する。 ・足利義満の権力掌握過程、守護の権限拡大と抗争について理解する。 ・倭寇が東アジア世界に与えた影響と、日本や琉球王国の東アジア貿易への関わりを理解する。 ・公家文化の伝統や中国の文化が武家文化に影響を与えたことを理解する。 ・流通経済の発達が港湾や水上の要地に都市を形成させたことを理解する。 ・惣村が蜂起し、徳政令を要求した理由を考察する。 ・地域権力の自立した動きに着目しながら、戦国時代はどのようにはじまり、広がっていったかを理解する。 ・戦国大名の領国経営を地域に即して考察する。 ・中央の文化が地方へ波及し、庶民が受容したことを理解する。 	<p>a)</p> <p>b)</p> <p>c)</p>
6	10	<p>第3編 近世</p> <p>第5章 統一政権の成立</p> <p>1.大航海時代と日本</p> <p>2.織田信長の天下布武</p> <p>3.豊臣秀吉の全国統一</p> <p>4.豊臣政権の対外政策</p> <p>5.桃山文化</p> <p>6.江戸幕府の成立</p> <p>7.幕府と藩の支配体制</p> <p>8.鎖国と四つの口</p> <p>9.身分制と村・町の支配</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南蛮貿易の過程と、民衆がキリスト教信仰にひかれた意味を考察する。 ・信長が一向一揆勢力に対して行った弾圧と、その理由について考察する。 ・秀吉が朝廷の権威を利用した統一事業を行い、検地と刀狩によって兵農分離を促したことを理解する。 ・朝鮮侵略戦争が人々の生活をどのように破壊したのかを考察する。 ・堺・博多などの豪商や庶民が文化を担ったかことを理解する。 ・徳川氏による260年余りにわたる全国支配の確立過程を理解する。 ・幕府の支配組織とその役割や、軍事力と経済力の基盤を理解する。 ・貿易統制の背景に、神国思想に基づくキリシタン信仰に対する差別があったことを理解する。 ・村と町の支配の仕組みと、武士と百姓・町人の身分を理解する。 	<p>a)</p> <p>b)</p> <p>c)</p>
8	10	<p>第6章 幕藩体制の展開</p> <p>1.幕府政治の転換</p> <p>2.産業の発達</p> <p>3.交通と都市の発達</p> <p>4.町人文化と学問の発達</p> <p>5.享保の改革と田沼の政治</p> <p>6.商品経済の発達と社会の変化</p> <p>7.蘭学と国学の普及</p> <p>8.寛政の改革と異国船の接近</p> <p>9.大塩の乱と天保の改革</p> <p>10.民衆文化の発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徳川綱吉の文治政治が社会、経済に何をもたらしたかを考察する。 ・農業技術の改良や農書の普及が生産力を上げ、諸産業の発達へとつながったことを理解する。 ・江戸や大坂で商業や運輸が発達した理由と、民衆の暮らしを理解する。 ・民衆の経済力の高まりを背景とした元禄文化の特徴を理解する。 ・幕府財政の悪化を立て直すために行われた政治改革について理解する。 ・商業的農業や貨幣経済の浸透に伴う貧富の差の拡大、自然災害を契機とした矛盾や対立を理解する。 ・学問・思想の新たな展開に注目し、近代化への動向を理解する。 ・欧米列強のアジア進出とその対応の変化、幕藩体制に及ぼした影響について考察する。 ・一揆や打ちこわしの続発、外国船の来航などに対して天保の改革はどのように対応したかを考察する。 ・江戸の民衆に支持された文芸・演劇・絵画などの特徴を理解する。 	<p>a)</p> <p>b)</p> <p>c)</p>
9	3	<p>第4編 近代</p> <p>第7章 大日本帝国の形成</p> <p>1.開国と社会の変動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開国後貿易が本格化したことによる政治や社会、経済の動揺を理解する。 ・倒幕派の形成から幕府の滅亡にいたる政治過程を理解する。 ・明治政府による中央集権体制の確立過程について理解する。 	<p>a)</p> <p>b)</p> <p>c)</p>

9	12	10	<p>2.尊王攘夷から倒幕へ</p> <p>3.明治維新と新政府の成立</p> <p>4.文明開化と復古</p> <p>5.地租改正と富国強兵</p> <p>6.アジア外交と国境問題</p> <p>7.民権思想と国会開設運動</p> <p>8.私擬憲法と政党の結成</p> <p>9.松方財政と民権運動の激化</p> <p>10.大日本帝国憲法の制定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 藩閥専制政府のもとで実行された一連の近代化政策の意義とその問題点を考察する。 近代的土地所有制度が確立し、交通・通信などインフラ整備が進んだことを理解する。 朝鮮や琉球に対しては、軍力を用いながら外交交渉が展開されたことを理解する。 立憲政体をめぐる自由民権運動と藩閥政府との対抗関係を考察する。 自由民権運動の展開が私擬憲法を生み出し、政党を誕生させたことを理解する。 松方デフレ政策が社会にどのような影響を与えたのかを考察する。 大日本帝国憲法の特質を日本国憲法と比較しながら考察する。 	
10	16	11	<p>第8章 大日本帝国の展開</p> <p>1.条約改正と立憲政友会の結成</p> <p>2.朝鮮政策と日清戦争</p> <p>3.日清戦争後の東アジア</p> <p>4.日露戦争と朝鮮</p> <p>5.朝鮮の植民地化</p> <p>6.産業革命と社会問題</p> <p>7.欧米文化と伝統文化の交錯</p> <p>8.大正デモクラシーの幕開け</p> <p>9.第1次世界大戦</p> <p>10.第1次世界大戦後の世界</p> <p>11.日本資本主義の成長</p> <p>12.米騒動と社会運動</p> <p>13.普通選挙法と治安維持法</p> <p>14.大正デモクラシーと文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 条約改正交渉が、国際情勢の変化に対応して進展したことを理解する。 日清戦争が朝鮮や台湾をも含めた複合的戦争であったことを理解する。 日清戦争後、欧米列強による中国分割が進んだことを理解する。 朝鮮、満州の利権をめぐる日露間の対立が戦争に発展したことを理解する。 日本の朝鮮植民地化の過程を理解するとともに、日本が植民地にした理由を考察する。 産業革命がもたらした社会問題と、労働運動、社会主義運動の関係を考察する。 欧化主義と国粋主義の2つの潮流のなかで近代文化が展開したことを理解する。 大正デモクラシーの高まりの中で、護憲運動が展開されたことを理解する。 第1次世界大戦期に日本が中国への侵略を強めていったことを理解する。 パリ講和会議後のアジアの民族運動の広がりが、協調外交を展開させたことを理解する。 第一次世界大戦が日本経済にもたらした影響について考察する。 労働運動や女性解放運動などさまざまな社会運動が展開された理由を考察する。 男子普通選挙法が実現し、政党内閣が慣習化した背景を考察する。 大正デモクラシーと大衆文化の関係を考察する。 	a) b) c)
11	16	12	<p>第9章 15年戦争と日本・アジア</p> <p>1.侵略戦争への序幕</p> <p>2.満州事変と「満州国」</p> <p>3.日中戦争</p> <p>4.第2次世界大戦と日本</p> <p>5.アジア太平洋戦争</p> <p>6.戦時下の文化と国民生活</p> <p>7.日本の敗戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> 協調外交が転換を迫られた理由を、経済的側面と外交的側面から考察する。 満州事変が発生した経緯と、「満州国」の建国過程を理解する。 ファシズム運動の中で軍部が台頭し、中国との全面戦争に至る過程を理解する。 国家総動員法の制定や、新体制運動の推進など、国民が戦争に動員されていく過程を理解する。 「大東亜共栄圏」の理念と実態について理解する。 戦時経済が崩壊し、国民生活が破壊されたことを理解する。 沖縄の住民が集団自決した理由や原爆が投下された理由を考察する。 	a) b) c)
12	10		<p>第5編 現代</p> <p>第10章 戦後改革と高度経済成長</p> <p>1.戦後世界と日本</p> <p>2.日本国憲法と民主主義体制</p> <p>3.戦後改革の転換</p> <p>4.経済復興と再軍備</p> <p>5.サンフランシスコ平和条約</p>	<ul style="list-style-type: none"> 連合国軍総司令部による民主化を目的とした諸改革について理解する。 日本国憲法の内容を理解するとともに、国民が憲法をどう受け止めたのかを考察する。 アメリカの対日占領政策が転換された理由を考察する。 朝鮮戦争が日本経済に与えた影響について理解する。 サンフランシスコ平和条約締結の意味と、問題点について考察する。 新安条約反対運動が盛り上がった理由を考察する。 	a) b) c)

1	4	6.日米新安保条約 7.高度経済成長と公害 8.ベトナム戦争と沖縄 9.戦後の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長によって、国民の生活がどのように変化したのかを理解する。 ・沖縄の日本復帰によって、沖縄の人々の生活がどのように変化したのかを理解する。 ・文化の大衆化とマスメディアの関係について考察する。 	
1 2	10	第11章 現代の世界と日本 1.低成長への転換から経済大国へ 2.経済大国日本と国際経済 3.湾岸戦争後の世界と日本 4.バブル崩壊と政界再編 5.21世紀の日本社会 6.21世紀の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長が終焉した理由を考察する。 ・日本の軍事的役割の拡大に対して、アジア諸国が警戒感を持った理由を考察する。 ・新自由主義経済体制の進展と、それに対抗する住民運動が展開されたことを理解する。 ・東日本大震災の復興のあり方について考察する。 ・平和と人権の確立を求める運動が世界的に広まっていることを理解する。 	a) b) c)